

優秀賞

「知ること」から始めよう

福島市立信陵中学校 3年
中島 美佑音

カンボジア王国。それは、東南アジアのインドシナ半島に位置する、人口約 1,500 万人の、アジアの中でも比較的小さな国。緑が豊かで、誰もが知っている世界遺産、アンコールワットがある国。皆さんは知っているだろうか。今、カンボジアが抱える問題、そして「戦争」が残していった負の遺産を。

私がカンボジアについて知ったのは、昨年度に生徒会活動の一つとして、「カンボジア地雷撤去キャンペーン」に参加したことがきっかけだ。生徒会役員の中で、「何か新しい活動を行ってみたい」となり、顧問の先生が紹介して下さった活動だ。具体的には、書き損じハガキを全校生から募集した。集められたハガキは、日本で換金した後、カンボジアの地雷撤去などに活用される。私たち生徒会役員は、今なおカンボジアでは約六百万個もの地雷が埋まっていて、被害の約 30 パーセントは女性や子どもだという事実を知り、少しでも力になりたいと考え、放送やポスターでの呼びかけを一生懸命行った。その結果ハガキは 445 枚も集まり、地雷原二百平方メートルを安全な土地にできる金額を集めることができた。キャンペーンのほうから受領証が送られてきたとき、私は少しでも困っている人の役に立てて嬉しかったし、このキャンペーンに参加して良かったと思った。

その後、私はそもそもなぜカンボジアに多くの地雷が埋めこまれているのか、他にはどんな問題があるのか、もっとカンボジアについて知りたいと思い、調べることにした。そこで分かったのは、地雷は内戦によるものだという事、他には経済格差による貧困、飢えも問題になっているということ。そしてどちらも、「戦争」が関わっているということ。カンボジアでは 1970 年から 1998 年の約 30 年間、内戦状態で、その時埋めこまれた地雷が爆発しないまま残っているという。私は本当に最近のことだったのでとても驚いた。また、貧困は長い間他国に支配されてきたため、国の発展が遅くなったからだという。日本は何て住みやすく、平和な国なのだろう、戦争の残すものは何て悲しく辛いのだろうと、改めて実感した。

私は、このような国や人々を救うために最も重要なことは、「知ること」だと思う。私も今回このキャンペーンを通して、カンボジアへの理解を深めることができた。知らないは何も始まらない、何もできないと強く感じた。世界に目を向けると、いろいろなことが見えてくる。総理大臣や大統領になって世界を変えるのは、難しいと思う。でも、中学生の私たちにもできること、私たちにしかできないことだって、身近にたくさんあるはずだ。これからも、生徒会活動や個人でも誰かの役に立てるような活動を、積極的に行っていきたい。広い視野を持ち、いろいろなことに目を向け、気づけるような人になりたい、と強く思っている。